

りましたが、将来の元利償還金への財源対策として、減債基金を事業着手当時より13億円超まで着実に積み立て、当該基金の活用と将来を見通した財政運営の安定を図ったところであります。

さらに、町単独で行っていたごみ処理事業においては、クリーンセンターの老朽化等により、焼却施設の更新には30億円以上の試算がなされ、その財源も起債等により将来に亘り財政を圧迫することが想定されることから、平成23年6月に西秋川衛生組合への加入させていただき、加入に伴う施設整備負担金は7億6千万円ほどでありましたが、22億4千万円の将来負担を軽減し、住民生活に必要なごみ処理に対する不安が解消されました。

さらに、公設の斎場整備の要望や火葬場の整備につきましましては、町単独

での整備は不可能なことから、秋川流域斎場組合に、平成25年5月より加入させていただき、斎場の利用が組合に加入したことにより、式場使用料は従来と比較して2分の1、火葬料については8万円が1万円になる等、安価な料金で使用でき、広く住民に寄与する生活基盤の課題解決を図りました。また、奥多摩町の誕生以来、「観光立町」を標榜する町として、おくとま海沢ふれあい農園の整備、森林セラピー事業の開始、はとのす荘の建て替え等や現在は、「日本一きれいな観光用公衆ト

イレ」を目指し、観光用公衆トイレの清掃を行い、観光事業の振興を実施するなど、数多くの町の課題に果敢に取り組んでまいりました。

このような中、行財政改革、財政基盤の安定にも努めさせていただき、平成16年5月に私が町長就任した時の積立基金の状況は、10億2千万円程度であったものを平成29年度末には、42億8千万円とし約4倍に増加させる一方、一般会計における地方債現在高は、平成15年度末、44億5千万円だったものを平成29年度末には22億9千万円と約

2分の1に減りました。これは、新たな借入金金の抑制を行い、その分の財源補完を東京都市町村総合交付金に求め、将来に渡る財政不安の解消に取り組んだ結果であります。

平成27年からスタートいたしました「第5期奥多摩町長期総合計画」においては、「人 森林（もり） 清流 おくたま魅力発信！」く住みたい住み続けたい みんなが支える癒しのまち 奥多摩くをキャッチフレーズに、豊かな森林（もり）と清流の中で自然と共生する町において、多くの魅力に包まれた、住む人と訪れる人が癒され、子どもからお年寄りまで、生涯を健康で安心して暮らせるまちづくりを推進しておりますが、その中でも過疎化が進行する町の最大課題である人口減少への取り組みとして、少子

化対策と定住化対策を「奥多摩創造プロジェクト」

に位置付け、重点的に、また、積極的に推進してまいりました。

この「奥多摩創造プロジェクト」では、活力ある地域づくりのため、少子化対策の推進として、出会い・暮らし、子育て・教育の分野を、また、住みたい方が住める町を築くため、定住化対策の推進として、仕事、住まいの分野を推進することとしております。

これらの対策は、過疎化による人口減少、少子高齢化が進む当町において、高齢化対策や地域コミュニティの活性化にもつながるものであり、高齢化率は49%と非常に高い状況が続く中、地域コミュニティが低下しつつある地域も見られる町において、重点的に推進すべき取組であると考えて推進してまいりました。

このようなことから、平成20年3月には地域全体で子ども子育てを支

